# Annual Report

## 2022 WAPPINESS

SPECIFIED NONPROFIT CORPORATION
WAPPINESS

# ごあいさつ

こんにちは、NPO法人わぴねすです。
早いもので、このアニュアルレポートを作成している2023年夏にわぴねすは法人設立7年目を迎えます。
支援者の皆様、2022年度もわぴねすを支援していただきありがとうございます。

2022年度は、
- 就労支援事業にてローンの回収を再開
- 支援者のご寄付により緊急支援基金を設立
- 教育事業にて絵本の読み聞かせを開始
- 静岡福祉大学にて講演会を実施

など、コロナ禍の困難を乗り越え、新たな活動が芽吹いた1年でした。
わぴねすは小さな団体ではありますが、現地との繋がりを大切に活動を続け、基盤を作ってきたからこそ、
この様な新たな取り組みに繋がっていると感じます。
2023年度も実りの多い一年となるよう活動して参ります。

# 理事体制が新しくなります

これまで代表理事としてわぴねすを牽引してくれた酒井は、2022年度をもって代表理事を辞任いたします。
法人設立者である前代表の後、代表理事という重責を引き受け、海外にいながら団体を引っ張ってくれた酒井は
わぴねすにとって大変大きな存在でした。
コロナ禍で現地への渡航ができない難しい状況で、代表理事を引き受けてくれた酒井。
彼女の持ち前の熱量と影響力で、食糧支援などの有意義な活動を行うことができました。

2023年度より、わぴねす理事である檜山、中西、そして新たに就任する石田による共同代表理事体制となります。
これまでと変わらず、現地に寄り添いコロニーを支援していきますので、
新しい体制となるわぴねすを引き続き見守っていただけると幸いです。

# TOPICs! 2022

## New! Terra Motors株式会社様との協業

Terra Motors株式会社様のご協力により、GPS機能が搭載されたTOTOを使わせていただくことが出来ることになりました。
Terra Motors株式会社様はインドでも事業を展開されており、今回ご縁があって支援を快諾いただきました。
GPS機能により、TOTOの稼働状況を正確に把握できる様になるので、管理体制の強化に役立てていきます。

▶TOTOレンタル事業の詳細については次ページへ！

## New! 現地スタッフ増員

リンクー

リンクー（Rinku）がわぴねす現地スタッフとして新たに加わりました！
以前よりNGO活動に興味があり、現地スタッフの紹介でわぴねすに参加。
まずは既存プロジェクトに同行してもらいつつ、図書館プロジェクトの中心メンバーとして活躍してもらうことを期待しています！
日本にいるわぴねすスタッフと円滑にコミュニケーションが取れるように、英語の学習サポートも実施していきます。

## 緊急支援基金で２名を支援

昨年設立した「緊急支援基金」より、 ２名の方にお見舞い金をお渡ししました。
・2022年7月　ビシュナプールコロニーに住むカメサシンさん
・2023年3月　ナバジバンプールコロニーに住むオビジットさん
彼らは怪我により一時的に仕事が出来なくなったため、
お見舞い金約5,000円をお渡ししました。
※緊急支援基金：
病気や怪我で就労が困難になった家庭へお見舞金を給付するための基金

オビジットさん

## 静岡福祉大学・鶉先生による特別講義

いつもお世話になっている静岡福祉大学の鶉先生より、わぴねすメンバー向けの特別講義をしていただきました！
ハンセン病問題に関わりの深い「尊厳」の意味について、鶉先生の専門分野である精神保健福祉について等、お話を伺いました。わぴねすの活動を福祉という広い観点から見つめ直す機会となりました。

講義の様子

## ピアノコンサート実施しました！

ピアニストの楠木由希子さんにコロニーを訪問していただき、ピアノコンサートを開催しました。ビシュナプール、ナバジバンプールコロニーで開催し、約200人ほどの住民が参加しました。クラシック、日本のアニメソング等様々な曲を演奏していただき、現地の伝統的なベンガルソングを演奏した時には皆で合唱する場面も！

楠木さんの演奏を聴く住民たち

# 就労支援事業

## 事業再開！ マイクロローン・TOTO

2020年から発生している新型コロナウイルスの影響を受け、2020年4月頃からTOTOレンタル事業、マイクロローン事業共にレンタル料やローンの回収を停止していました。少しずつ経済状況も回復してきたため、事業参加者と話し合いの上、2022年11月よりTOTOレンタル料の回収を再開、2023年3月にはマイクロローンの返済も再開することが出来ました！現状、一部ドライバーのレンタル料支払いが遅延しているなど、コロナの影響はまだまだ続いていますが、少しずつ事業を軌道にのせられるようにコロニーの人々と一緒に頑張っていきます。

### TOTOドライバーの声

COVID19が落ちついた現在でもTOTOドライバーとしての仕事はまだまだ良い状況とはいえませんが、少しずつ良くなってきてはいます。今後もTOTOドライバーとしての仕事を続けていきたいです。

将来、自分のTOTOを購入するために、少しずつお金を貯めています。自分のTOTOを持つことが出来れば家族のためにより多くのお金を貯めることが出来ます。最終的には何台かのTOTOを所有して、貸し出しできるようになりたいと思っています。

(Amit Royさん@ナバジバンプールコロニー)

### 新たにTOTO6台購入！TOTOレンタル台数合計19台に！

2023年6月新しいTOTO6台を発注しました。新たに6人のドライバーを募集し、レンタルを予定しています。
今回Terra Motors株式会社様のご協力により、GPS機能が搭載されたTOTOをわぴねすが使わせて頂くことが出来ることになりました。GPS機能により、実際にどの程度稼働しているか、どのエリアで稼働しているかなどがわかるようになるため、TOTOの管理体制が強化されます。

## 2023年度の目指すところ

2022年度の目標であった事業の再開（レンタル料やローンの回収）を無事果たしたため、2023年度は事業拡大を推進して参ります。具体的には既存事業(TOTOレンタル)の拡大と新規事業の始動を目指します。

### ①New Project For Women

女性に特化したマイクロローン事業を開始します。1つの事業に対して、2-3人のメンバーに参加してもらい、返済も共同で行ってもらいます。

パイロット事業として、まずはチャイの販売と、縫製の仕事を始めるための資金を提供します。縫製の事業はスクールに通いながら簡単な修繕の仕事を行う予定です。

縫製事業に参加のモンゴラさん（写真右）とその息子

### ②TOTOレンタルプロジェクトの拡大

現在19台のTOTOをレンタルしていますが、2023年度は最大25台まで台数を増加する予定です。次のレンタル実施予定地はわぴねすが長年活動してきた西ベンガル州ではなく、その隣のジャールカンド州を予定しています。
ジャールカンド州の当事者団体であるAtma Swabhimanの協力をいただきながら事業を進める予定です。

# 教育事業

教育事業部では「あらゆる”知らない”を”知る”に変える」を方針に掲げ、ハンセン病問題に関する知識・認識を日印社会全体に伝える活動や、コロニーにおける学習サポートを行っています。
2022年度は、国内のハンセン病療養所訪問に加え、大学での講演を実施しました。また、1年を通じて図書館プロジェクト（絵本を通じた学習機会の提供活動）に取り組み、コロニーの子どもたちへ読み聞かせを実施しました。

## 国内活動

### ①国内療養所訪問

東京都東村山市にある国立療養所多磨全生園をインドワークキャンプ団体namaste!のメンバーとともに訪問しました。新しくnamaste!に加わった1年生をはじめ15名が参加。国立ハンセン病資料館を見学し、日本におけるハンセン病の歴史を学びました。最後に、療養所内や資料館を見学して抱いた感想を参加者同士で共有。これまで知識として知っていた「ハンセン病」や「療養所」の印象が少し変わった、様々な視点があると学んだ、という意見があがりました。今後も、国内各地のハンセン病療養所を学生とともに訪問し、ハンセン病問題への理解を深める機会を創って参ります。

### ②講演活動

静岡福祉大学で開講されている講義「精神保健福祉の原理A」の1コマを頂き、講演を行いました。「ハンセン病問題とソーシャルワーク」をテーマに、ハンセン病に対する差別の歴史や現状、またソーシャルワーカーとしての活動状況と想いについてお話しし、最後に行動してみることの大切さをお伝えしました。
講演のご依頼お待ちしております！ご関心をお持ちでしたらNPO法人わぴねす（info@wappiness.org）までお気軽にお問い合わせください。

### ③インドワークキャンプ団体namaste!定例会

namaste!は月に1回、筑波大学にて定例会を開催しています。
定例会にはわぴねすも参加し、ワークキャンプや学生団体の運営について学生と一緒に考えています。

## 図書館プロジェクト

図書館プロジェクトは、コロニーの子どもたちに文字に触れる機会を増やしてもらうため、2021年度から実施しているプロジェクトです。ベンガル語に翻訳した日本の絵本を送り、読書を通じた学習サポートを行っています。

2022年度は、マニプールコロニー・ビシュナプールコロニーに計24冊の絵本を届けることができました。
また、絵本の送付と併せて現地スタッフによる読み聞かせを行っています。ワークキャンプで日本人キャンパーがコロニーを訪れた際には、子どもたちへの質問を通じ絵本の理解度や学んだことを調査しました。同じコロニー、同じ学年の子どもたちでも学習レベルは様々。多様な学習レベルの教材をはじめとした学習環境の整備が求められます。
今後は、コロニー内へ本棚を設置する予定です。本をみんなで管理するとともに、子どもたちが集い学習する場を目指します。

# ワークキャンプ事業

2年ぶりにコロニーへの訪問を再開し、2023年3月にはマニプール(MAN)・ビシュナプール(VSU)の2コロニーでワークキャンプを実施しました！各コロニーでnamaste!メンバーたちが実施したプロジェクト(PJ)をご報告します。

## リサーチPJ（MAN）

これまでのWCの成果を調査し、マニプールの現状を把握するためコロニーの大人から子どもまで幅広い年代にインタビュー調査を実施。またリーダーのダス氏にコロニーの発展への取り組みについて伺いました。

インタビューの様子

## アクセサリーPJ （VSU）

就労支援の一環として、コロニーの女性と一緒にアクセサリー作りを行いました。作業を通して女性の職業スキルを確認し、現在の就労状況を調査しました。

アクセサリーを作る女性たち

## 図書館PJ（MAN/VSU）

コロニーの子どもたちに日本の絵本の読み聞かせを行いました。
読み聞かせ後は内容について質問をしたり、
印象に残った場面を絵に描いてもらうなどの
アクティビティを行いました。

絵本に集まる子どもたち

掃除に参加した青年

## お掃除PJ（VSU）

コロニーの人々と一緒に、水場のゴミや水場周辺を掃除しました。
苔が生えて滑りやすくなっていた水場を掃除したことで、
安全に使える環境になりました。

## じじばばPJ （MAN）

コロニーのおじいちゃん・おばあちゃんとゲームを通じて交流を深めました。
ゲームで間違えたら歌を歌うというルールがとても盛り上がり、
お互いの国の歌を歌いながら皆で楽しみました！

沢山の方が参加してくれた

## その他のPJの様子

絵画教室とのコラボ授業

コロニーでの生活を映像に記録

コロニーにプレゼントした写真

# 村人史プロジェクト

コロニーに住む方々にインタビューし、その人のこれまでの人生や今の生活についてお話を聞き、記録に残す“村人史プロジェクト”。ハンセン病コロニーに住んでいる人ってどんな人なのか？どんな人生を送ってきたのか？彼らについて知ることで、コロニーの人々を少しでも身近に感じてもらえたら。

**名前：ジテン・カリンディさん　　年齢：60歳**
**家族：7人（妻、息子、息子の妻、孫3人）**
**住居：ビシュナプールコロニー**

自作の竹かごを持つジテンさん

**ーはじめまして。インタビューへのご協力ありがとうございます！**
**今日はお話をいろいろ聞かせてもらえたら嬉しいです。**
**早速ですが、ビシュナプールコロニーに住むことになった経緯を教えて下さい。**
若い頃にハンセン病にかかってしまって、妻と共に村を追い出されたんだ。
当時はハンセン病の薬もワクチンもなく、ハンセン病患者はひどい差別を受けていた。どこに行ってものけ者扱いされるから、いろいろな場所を転々としたよ。最終的にこのコロニーの目の前にある駅にたどり着き、現在のリーダーであるジョゲンダに出会って、彼が私を受け入れてくれたんだ。

**ー当時ビシュナプールはどのような状況だったのですか？**
ここでもハンセン病罹患者に対するひどい差別が横行していたよ。人々は基本的に私たちから距離を置いていた。そんな中でジョゲンダは政府とハンガーストライキなどで闘って、コロニーを建設してくれたんだ。ここに来る前は常に人から避けられていたから、村人と一緒にご飯を食べたり話したり一緒に過ごすことができて本当にうれしかった。

**ー当時、具体的にどのような差別を受けていたのですか？**
コロニー外の人に「来るな」、「触るな」と罵られることが多かった。人々はハンセン病が水から感染すると考えていたためか、水に近づくことを許してもらえなくて飲料水に困って苦しい思いをたくさんしたんだ。それに、買い物をするときお店の人がお金を普通に受け取ってくれず、目の前で渡した硬貨を熱湯消毒されたりもしたよ。ひどい時は私たちにも熱湯をかけてきたんだ。差別はコロニーの外だけじゃなく、コロニー内にいても受けたよ。ハンセン病コロニーがここにあることを良く思わないビシュナプールの人たちが村を襲撃しに来て家を壊されたこともあった。

**ーその時、どうされたのですか？**
ジョゲンダが中心となって竹で襲撃者と戦ってくれたんだ。ジョゲンダはとても立派な人だよ。彼はハンセン病で苦しんできた人たちの間ではここビシュナプールだけでなく、西ベンガル州全体でも有名な人なんだ。

**ー今も差別を受けることはありますか？**
昔に比べると減ったと思うよ。日本人がハンセン病コロニーに通ってくれるようになって、彼らが私たちと一緒に過ごすところをコロニーの外の人々が見て、ハンセン病は触れるだけで感染するものじゃないんだと理解するようになったんだ。それ以来差別は減ってきたように感じる。

**ーそうなんですね。私たちが少しでも貢献できているなら嬉しいです。そろそろ時間ですね…**
**ーダダ、今日は本当にありがとうございました。**
いいえ。また話そうね。

キャンパーとジテンさん(右)

わぴねすHPでは、
他にも村人史インタビュー記事を公開中です！
ぜひご覧ください。

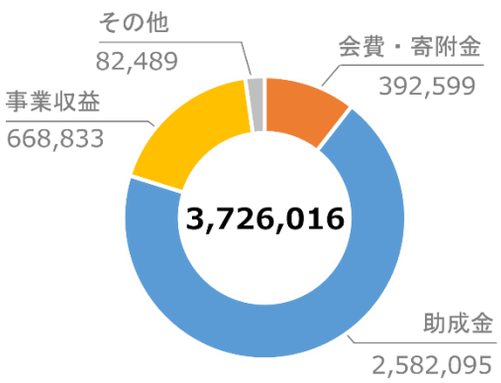
# NPO法人わぴねす団体概要

| | |
|---|---|
| 正式名称 | 特定非営利活動法人わぴねす |
| 代表理事 | 酒井美和 |
| 現地協力団体 | Atma Swabhiman<br>The Leprosy Mission Trust India |
| 事業形態 | ワークキャンプ事業部<br>就労支援事業部<br>教育事業部 |
| 活動内容 | マイノリティの社会的地位の向上及び尊厳の回復を目的として、インドハンセン病コロニーにてハンセン病問題解決のために活動を行なう |
| WEBサイト | NPO法人わぴねす<br>https://wappiness.org<br>インドワークキャンプ団体namaste!<br>https://namaste.wappiness.org |

## 2022年度収入

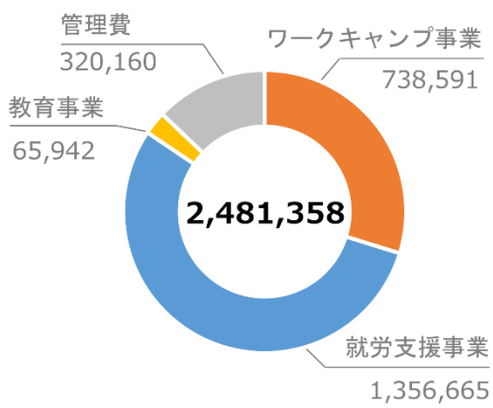
単位：円

ワークキャンプ活動を再開するにあたりキャンパーより参加費を徴収したこと、TOTOレンタル事業でレンタル料徴収を再開したことから事業収益が発生しました。加えて、TOTOの新規購入のための助成金収入があったため、事業収益と助成金が収入全体の9割弱を占めております。
団体基盤を支える定期的な寄附金収入と、活動の幅を広げる助成金等の多額収益により、事業成果を一層深めることができました。




## 2022年度支出

ワークキャンプ事業（口腔ケア活動における歯ブラシ購入費用、ワークキャンプ活動における同伴職員経費や安全対策費用等）及び就労支援事業（TOTOバッテリー交換費用、現地職員の業務委託費、日本人職員の渡航経費等）にて支出が増加しました。管理部門は、バーチャルオフィス賃借料、会計ソフト、クラウド利用料、クレジットカード（寄付金）の決済手数料が主な内訳となっております。
2023年度においては、TOTOバッテリー交換費用に加え、教育事業である図書館PJ（絵本購入費用、絵本保管用の施設整備費用等）での支出が主となる見込みです。




## 支援方法

### クレジットカード

右記QRコードを読み取り、
HP上にて手続きをお願いいたします。

### 銀行振込

| | |
|---|---|
| 銀行名 | ゆうちょ銀行 |
| 口座名義 | 特定非営利活動法人わぴねす |
| 支店名 | 二〇八（ニゼロハチ） |
| 預金種目 | 普通 |
| 口座番号 | 0538244 |